

令和5年度 多文化 Opinion Exchange 実施報告

1 日 時

令和6年1月22日（月）13:30～16:00

2 場 所

オンライン（Zoom Webinar）

3 テーマ

地域コミュニティとの交流から得たもの～日本に住み続けたい理由～

4 ファシリテーター

明治学院大学 教養教育センター 准教授 長谷部 美佳 氏

5 発表者・パネリスト

株式会社白岩 ホスピタリティマネージャー Mathieu Glacet（マチユ グラセ）氏
特別養護老人ホーム 松陽苑 ユニットリーダー Desi Subarkah（デシ スバルカ）氏
株式会社大阪設備 代表取締役 代表取締役 宮田 雄史 氏
社員 Truong Nhu Anh
（チュオン ニュー アイン）氏

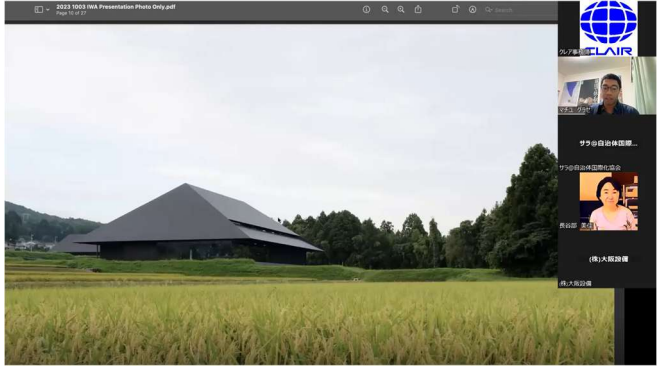
6 参加者

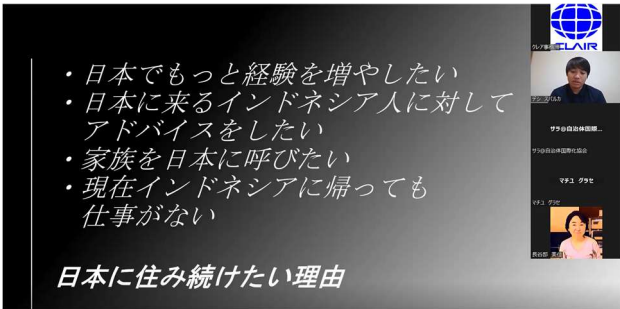
自治体・国際交流協会の職員等 167 名

※出席を確認したアカウントの数のため、同一アカウントで複数名が視聴した場合など、実際の参加者数と異なる可能性があります。

7 実施内容の詳細

時 間	内 容
13:30-13:35	開会・挨拶
13:35-13:55	基調講演（長谷部 美佳 氏）

	 長谷部先生から、「日本への定着～決め手となるのは何か?～」というタイトルでウェビナーのテーマ「地域コミュニティとの交流から得たもの～日本に住み続けたい理由～」について考察いただきました。日本在住の外国人が日本に住み続けたいと思ったきっかけには、「重要な他者」の存在があるのではないかと、「キー」となる日本人のおかげで、日本が暮らしやすくなったり、楽しくなったりする人が多いのではないかとお話しくださいました。そして、『日本社会の側としては、どれだけ彼らに「日本にいてもらえる」ような「重要な他者」になれるか、あるいは社会として「重要な他者」をどれだけ増やせるか、が重要なのでは?』と提起いただきました。
13:55-14:20	活動紹介 (Mathieu Glacet 氏)  JET プログラムに参加し国際交流員 (CIR) として勤めた際の経験、現在の酒造会社での仕事についてご紹介いただきました。富山県庁での5年間の任期が終わる頃、自分のやりたいことを真剣に考えた際、やはり日本で自分の能力を生かした仕事がしたいと思ったとのことです。富山での人脈から、縁あって就職した株式会社白岩では、ちょうどマチュウ氏のような人材が必要とされており、非常にやりがいを感じていると語ってくださいました。
14:20-14:35	活動紹介 (Desi Subarkah 氏)

	 現在の老人ホームでの仕事、日本に住み続けたい理由についてご紹介いただきました。過去にEPA 介護福祉士候補者（特定活動ビザ）で来日し一旦帰国したものの、介護国家試験を受けるために再入国し、試験に合格して介護ビザに切り替え介護福祉士として働いていること、また、東日本大震災の経験なども語ってくださいました。 日本に住み続けたい理由はいくつかあり、インドネシアはあまり介護施設がないため、日本で経験を増やしスキルアップしたい、来日するインドネシア人の後輩にアドバイスをしたい、将来的には家族も呼び寄せたい、などお話してくださいました。
14:35-14:45	活動紹介（株式会社大阪設備） Truong Nhu Anh 氏からご自身の仕事の内容についてご説明いただきました。過去に技能実習生として来日し、株式会社大阪設備で働き始めました。現在は「特定技能」のビザに切り替えて同じ職場に勤めていらっしゃるとのこと。 ベトナムでは大学卒業後に就職できない若者も多く、Anh 氏の来日もそうした社会情勢がきっかけだったとのこと。技能実習で学んだ技術を活かせる現在の仕事に関心があるようです。社長の宮田氏からは「重要な他者」になれるように頑張りたいとの言葉があり、その気持ちがあるだけでも頼りがいのあるあたたかな上司なのではないかと思われました。
14:45-14:55	休憩
14:55-16:00	パネルディスカッション

	長谷部氏のファシリテーションのもと、参加者からいただいた質問に回答しながらパネルディスカッションを行いました。パネリストの4人には、これまで日本人と接してもらった時に良かったと感じた経験、いやだと感じた経験、仕事や生活が大変な時に頑張るモチベーションは何か、自分の住んでいる地域のコミュニティに入っているかどうか等について、率直なご意見をいただきました。「長く日本に住んでいても、外見だけで判断する方、日本語で声をかけても片言の英語で話してくる方がいる」というご意見もあり、受け入れる日本社会の側のあり方について考えさせられる場面も多くありました。
16:00	事務連絡・閉会